

平成 21 年 11 月 2 日

各 位

会社名 株式会社 プラコー
代表者名 代表取締役社長 秦 範男
(J A S D A Q ・ コード 6 3 4 7)
問合せ先 取締役 権田和睦
電話 0 4 8 - 7 9 8 - 0 2 2 2

第三者割当による新株式発行及び主要株主である筆頭株主の異動に関するお知らせ

当社は、平成 21 年 11 月 2 日開催の取締役会におきまして、下記のとおり第三者割当による新株式発行（以下「本件増資」という）を行うことを決議いたしましたので、お知らせいたします。

なお、本件増資に伴い、主要株主である筆頭株主の異動が見込まれるため、併せてお知らせいたします。

記

I 第三者割当による新株式発行

1. 新株式発行要領

- | | |
|--|--|
| (1) 発行新株式数 | 当社普通株式 9,000,000 株 |
| (2) 発行価額 | 1 株につき金 13 円 |
| (3) 発行価額の総額 | 金 117,000,000 円 |
| (4) 資本組入額 | 1 株につき金 6 円 50 銭 |
| (5) 資本組入額の総額 | 金 58,500,000 円 |
| (6) 募集又は割当の方法 | 第三者割当の方法によります。 |
| (7) 申込期日 | 平成 21 年 11 月 26 日（木曜日） |
| (8) 払込期日 | 平成 21 年 11 月 26 日（木曜日） |
| (9) 割当予定先及び割当予定株式数 | 新株式の全株を C A S T L E 第 1 号投資事業組合へ割当てます。 |
| (10) 前記各号については、金融商品取引法による届出の効力発生を条件とします。 | |

2. 募集の目的及び理由

当会計年度（平成 22 年 3 月期）におけるわが国経済は、前期に引き続き世界的な金融・経済危機に加え、在庫調整による自動車産業の設備投資が激減するなどを背景として、企業収益が大幅に減少し、民間設備投資や雇用情勢の急速な悪化など、景気は大幅な後退局面で推移しました。

当社の関係するプラスチック加工業界においては、昨年秋以降の世界的な金融危機の影響による景気の後退と自動車の減産により設備投資が減少したことから当社の主力商品でありますプラスチック加工機でフィルム製品（レジ袋、ゴミ袋、農ポリ、ラップ、多層機能）を成形するインフレーション成形機事業、及び中空製品（自動車部品、工業用部品、日用雑貨品）を成形するブロー成形

機事業とも厳しい状況で推移しましたが、特に自動車部品を成形するブロー成形機事業は厳しい状況になりました。また、リサイクル装置事業においては、環境リサイクル関連事業そのものは省エネやエコ関連等により全般的には引き続き成長が見込まれるものの、廃棄プラスチックのリサイクルに関しては、プラスチック加工業界の需要低迷とプラスチック原料価格の急激な低落などによる設備投資の見合わせ等により当社の主力商品であるプラスチック、古紙、材料等の減容の為の一軸破碎機も厳しい状況であります。

このような状況の下、当社は、販売体制の強化、新商品の開発と市場への投入による売上増と、生産コストダウンの推進などにより、経営基盤の強化に努めてまいりましたが、当社の主力商品であるブロー成形機事業の売上が激減したことなどから、当社第1四半期における売上高は低迷いたしました。

一方、平成21年8月3日を払込期日として実施いたしました株主割当による新株式発行が、当初予定の約半数の申込みにとどまり必要額に達することができませんでした。

株主割当増資計画数の15,777,600株に対し、実際に振込まれたのは7,870,093株であり、計画数の約50%であった理由は、当社が推測したところ、リーマンショックの影響が残るなか、当社株主においても、投資資金の捻出が困難であったことに加え、直近および近未来の当社業績に対する改善期待感が弱かったことなどがあげられます。

更に当社は、銀行借入について与信の関係もあり新たな借入金の調達が困難となっていることなどから研究開発費を調達することが出来ず、新商品の開発を行えない状況であります。それに加えて取引先においても、当社の様な財務体質が悪化した債務超過の状況にある様な会社との取引には、制限を設けられることもあることから、当社は、財務体質を強化すべく第三者割当による新株式発行を行うことといたしました。

なお、この第三者割当による新株式発行により調達する資金は、新商品の開発費用と借入金の返済に充当いたします。また、本年5月以降徐々に回復しはじめた市況に呼応した形で増加傾向を示しはじめた契約に伴う運転資金の増加にも対応させることにいたします。

今回の第三者割当増資は、債務超過の解消による仕入及び販売条件の好転による売上高の増加や利益の改善、また、新商品の開発を行い市場に商品を提供することにより、売上増加を図るものです。

3. 調達する資金の額、使途及び支出予定時期

(1) 調達する資金の額（差引手取概算額）

調達する資金の額	発行諸費用	差引手取概算額
117,000,000 円	14,322,000 円	102,678,000 円

(注) 発行諸費用の内訳は、有価証券届出書作成費用1,200,000円、登記関連費用422,000円及びアドバイザーフィー等11,700,000円及びその他資料作成費用1,000,000円であります。

(2) 調達する資金の具体的な使途

上記差引手取概算額 102,678,000 円につきましては、新商品の開発費に 60,000,000 円、借入金の返済に 22,000,000 円および増加運転資金に 20,678,000 円を充当する予定であります。その詳細は以下のとおりであります。

①新商品の開発

当社といたしましては、下記 2 つの分野に集中して開発費を投入することにより、早期に競争力強化を図り、売上高の増加を目指します。

a. 多層インフレーション（フィルム）成形機開発のための設備投資（平成 22 年 4 月までに開発の予定）

- ・ 内部冷却システム付径 350 三層ダイ&二段エアリング 20,000,000 円
- ・ 三層インフレーション成形用自動制御システム 7,000,000 円
- ・ 三層インフレーション成形用 1500L 引取装置 20,000,000 円

汎用フィルム用インフレーション（フィルム）成形機の設備投資意欲が後退している中、多層フィルム用インフレーション成形機の設備投資意欲は堅調であります。当社はこれまで汎用フィルム用インフレーション成形機を主に生産、販売してまいりましたが、新たに多層フィルム用インフレーション成形機を開発します。また、多層インフレーション成形機開発においては、フィルム冷却を内部からも可能とするとともに、フィルム冷却用のエアリングを 2 段にする事により、冷却効率を高め生産性を向上する内冷システム付径 350 三層ダイ&二段エアリングの導入及び多層押出機・引取装置を総合的に制御し、多層フィルム成形作業は熟練を要しますが、自動制御システムによりオペレーターの熟練、作業負荷を軽減、及びデータの整理など、自動化、省力化の自動制御システムの導入や、ダイ、エアリングの高生産化及び自動化に対応したフィルム成形引き取り装置等の導入で、高生産化、省力化、自動化を可能とする多層インフレーション成形機を総合的に開発することにより、高付加価値・省力化を実現するものであります。

従って、内部冷却システム付径 350 三層ダイ&二段エアリングに 20,000,000 円、三層インフレーション成形用自動制御システムに 7,000,000 円、三層インフレーション成形用 1500L 引取装置 20,000,000 円の開発調達費の支出を考えております。

b. 全自動式小型ハイサイクルブロー成形機開発のための設備投資（平成 22 年 2 月までに開発の予定）13,000,000 円

当社が得意とする自動車関連部品生産用の成形機が、市況の悪化に伴い低迷している中、食品・医療・容器等の関連部品用途においては比較的市況が安定しています。このような食品、医療、容器等の市場におけるブロー成形機は、高生産性とエコロジーであるものが注目されており、成形サイクルアップによる高生産、省エネモーター、ヒーター等によるエコ化を採用する全自動式小型ハイサイクルブロー成形機を新たに開発して市場に投入することにより、取引の拡大を図り、売上の増加及び安定化を目的としております。

②借入金の返済

今後の銀行借入れを容易にするため、取引先からの与信の回復を図り取引の継続及び再開を図るため及び支払利息の軽減を図るため借入金の返済を行います。

- ・ 短期借入金返済 7,000,000 円
- ・ 長期借入金返済 15,000,000 円

③増加運転資金

本来 5 月以降に受注が増加し、売上に先立ち材料の調達には、資金の手当てが必要になる為、

生産に合せて増資資金の一部を充当致します。

- ・人件費 7,500,000 円
- ・仕入費用 13,178,000 円

(3) 調達する資金の支出予定時期

調達する資金の支払予定時期は、以下のとおりとなっております。

①新商品の開発費

(単位：円)

	平成 21 年 11 月	平成 21 年 12 月	平成 22 年 1 月	平成 22 年 2 月	平成 22 年 3 月	平成 22 年 4 月	計
多層イン フレーション(フ ィルム) 成形機	—	—	7,000,000	16,000,000	14,000,000	10,000,000	47,000,000
全自動式 小型ハイ サイクル ブロー成 形機	—	5,000,000	5,000,000	3,000,000	—	—	13,000,000
計	—	5,000,000	12,000,000	19,000,000	14,000,000	10,000,000	60,000,000

②借入金返済

- ・短期借入金返済 平成 21 年 11 月 7,000,000 円
- ・長期借入金返済 平成 21 年 11 月 15,000,000 円

③増加運転資金

- ・人件費 平成 21 年 11 月 7,500,000 円
- ・仕入費用 平成 21 年 11 月 13,178,000 円

4. 調達する資金使途の合理性に関する考え方

本件増資による資金調達が出来ない場合、当社は、債務超過の状況が継続し、債務超過企業である当社に対しての銀行からの借入等がさらに厳しくなることが予想され、現状の手許資金では、研究開発費を捻出することが出来ず、このため顧客の需要を満足させる商品を投入することが出来ないことから、さらに業績が悪化することが想定されます。

当社は、現時点におけるコア事業であるインフレーション成形機、ブロー成形機及び環境リサイクル機器についていずれも厳しい市場競争が継続しており、売上及び利益が伸び悩んでおります。このような当社の状況から、借入金の返済等についても、運転資金から充当することが非常に厳しいことから、増資による資金によって借入金の返済を早めることによって、有利子負債の圧縮による資金効率の向上、支払金利の削減、更には資本の強化により企業価値の向上が図れるものと判断しております。

従って、前述の資金使途によって、財務体質の改善による取引先及び銀行等の金融機関からの与信の回復、不利な取引条件の回避が見込まれ、更に、新商品開発による競争力の強化により、売上及び利益の増加が見込まれることなどから、当社の企業価値及び株式価値の向上に資するものと認識しており、係る資金使途は合理的と判断しております。

5. 発行条件等の合理性

(1) 発行価額の算定根拠

発行価額は、本件増資の取締役会決議日の直前取引日（平成 21 年 10 月 30 日）のジャスダック証券取引所における当社普通株式の普通取引の終値 14 円から 1 円ディスカウントすることにいたしました。（ディスカウント率 7.14%）発行価額は、直近の市場価格に基づくものが合理的であると判断しており、当社と割当先が協議の上、合意、決定いたしました。

(2) 発行数量及び株式の希薄化の規模が合理的であると判断した根拠

本件増資により新規に発行する株式数は 9,000,000 株であり、これは現在の当社発行済株式総数の 57.11%に相当し、これによって 1 株あたりの株式価値は希薄化いたします。しかし、この増資により調達する資金を新商品の開発、市場への投入および借入金の返済ならびに運転資金に有効活用することによって、売上高の増加と収益性の向上が期待できますので、当社の業況が改善され、増資によって希薄化した株式価値を再び回復させるものと推量いたします。

なお、平成 21 年 8 月 3 日を払込期日として実施した株主割当増資資金が当初計画から、約 94,000,000 円減少した資金を補う意図を含んでおります。

発行済株式総数の増加による希薄化により、株価に与える影響は考えられますが、当社といたしましては、資金調達による財務体質の改善や運転資金の増加により、中長期的に当社の企業価値の向上に資するものと判断しております。

6. 割当予定先の選定理由等

(1) 割当予定先の概要

平成 21 年 11 月 2 日現在

① 商号	CASTLE 第 1 号投資事業組合												
② 所在地	東京都港区虎ノ門 5-12-12												
③ 設立根拠等	これまで培った企業経営の経験・知識を生かし企業の経営・再生事業を投資という形で実現させる目的で設立した日本民法上の組合。												
④ 組織目的	日本国内の上場企業への投資												
⑤ 組成日	平成 21 年 10 月 26 日												
⑥ 出資の総額	131,000,000 円												
⑦ 出資者・出資比率・概要	<table border="0"> <tr> <td>1. 株式会社誠實</td> <td>76.336%</td> </tr> <tr> <td>東京都港区浜松町一丁目 20-8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2. 大竹勇人</td> <td>22.901%</td> </tr> <tr> <td>千葉県野田市</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 株式会社モンテブランコ・キャピタル</td> <td>0.763%</td> </tr> <tr> <td>東京都港区虎ノ門五丁目 12 番 12 号</td> <td></td> </tr> </table>	1. 株式会社誠實	76.336%	東京都港区浜松町一丁目 20-8		2. 大竹勇人	22.901%	千葉県野田市		3. 株式会社モンテブランコ・キャピタル	0.763%	東京都港区虎ノ門五丁目 12 番 12 号	
1. 株式会社誠實	76.336%												
東京都港区浜松町一丁目 20-8													
2. 大竹勇人	22.901%												
千葉県野田市													
3. 株式会社モンテブランコ・キャピタル	0.763%												
東京都港区虎ノ門五丁目 12 番 12 号													
⑧ 業務執行組合員の概要	<table border="0"> <tr> <td>名称</td> <td>株式会社モンテブランコ・キャピタル</td> </tr> <tr> <td>所在地</td> <td>東京都港区虎ノ門 5-12-12</td> </tr> <tr> <td>代表者の氏名</td> <td>山田剛夫</td> </tr> <tr> <td>事業内容</td> <td>投資</td> </tr> <tr> <td>資本金</td> <td>80,000,000 円</td> </tr> </table>	名称	株式会社モンテブランコ・キャピタル	所在地	東京都港区虎ノ門 5-12-12	代表者の氏名	山田剛夫	事業内容	投資	資本金	80,000,000 円		
名称	株式会社モンテブランコ・キャピタル												
所在地	東京都港区虎ノ門 5-12-12												
代表者の氏名	山田剛夫												
事業内容	投資												
資本金	80,000,000 円												
⑨ 国内代理人の概要	該当事項はございません。												
⑩ 上場会社と当該ファンドの間の関係	<table border="0"> <tr> <td>上場会社と当該ファンドの関係</td> <td>該当事項ありません。</td> </tr> <tr> <td>上場会社と業務執行組合員との間の関係</td> <td>該当事項ありません。</td> </tr> </table>	上場会社と当該ファンドの関係	該当事項ありません。	上場会社と業務執行組合員との間の関係	該当事項ありません。								
上場会社と当該ファンドの関係	該当事項ありません。												
上場会社と業務執行組合員との間の関係	該当事項ありません。												
⑪ 上場会社と当該ファンドの出資者との関係	該当事項ありません。												
⑫ 当該株券の保有に関する事項	<p>割当予定先からは、中期的に保有する方針である旨の意見をいただいております。</p> <p>なお、当該割当新株式の全部又は一部を払込期日から 2 年間に於いて譲渡する場合には、当該譲渡の内容を直ちに当社へ報告する旨の確認書を締結しております。</p>												

(2) 割当予定先を選定した理由

当社は、厳しい環境を乗り越え今後も継続企業として株主様をはじめとするステークホルダーの利益を高めるため、財務体質の改善、経営基盤の強化、将来収益源泉の獲得を図っていくことが、当社の果たすべき当面の役割であると認識しております。これらを実行していくために、当社の経営環境及び経営方針等を理解していただける候補先に対して第三者割当による新株式の発行を行うことを検討してまいりました。割当予定先である CASTLE 第 1 号投資事業組合は、上場企業が発行する有価証券、上場企業の金銭債権を取得し、上場企業の企業再生を目的としておりますが、投資事業組合財産の管理および運営等を事業する株式会社モンテブランコ・キャピタルが業務執行を担当しております。また、同社の代表取締役山田剛夫氏は永らく商社に勤務され、さらに、数多くの役職を経験されており第三者割当の執行にあたり信頼するに足るものと思慮しております。割当予定

先との関係は、当社取締役の知人からの紹介によるものであり、当社の経営環境及び経営方針等に理解を示していただいたうえで、当社の資金調達目的について理解をいただいていることから、割当先として選定したものであります。また、知人2名へのアドバイザーフィーとしてそれぞれ払込金額の各5%(計11,700,000円)を支払います。

なお、当社は、CASTLE第1号投資事業組合の出資者である株式会社誠實と、その代表者である大竹勇人氏への聞き取り調査を東京商工リサーチに委託しました。現時点において、反社会的勢力でないことおよび反社会的勢力と関わりがないことを確認しております。

また、出資者である株式会社モンテブランコ・キャピタルとその代表者である山田剛夫氏への聞き取り調査についても、東京商工リサーチに委託しましたが、株式会社モンテブランコ・キャピタルに関しては、設立後、約3ヶ月とういうこともあり、財務内容に関する十分な調査結果を得ることができませんでした。株式会社モンテブランコ・キャピタルおよび山田剛夫氏の調査は聞き取り調査で実施し、反社会的勢力との関係を認めることはできませんでした。

代表者以外の2名の取締役と1名の監査役については、東京商工リサーチにて調査した結果、反社会的勢力と関わりがないことを確認しております。

なお、第三者割当による新株引受資金は、本有価証券届出書の提出日現在確認がとれていません。本有価証券届出書の提出日現在、CASTLE第1号投資事業組合には、出資者からの出資未了のため新株引受資金がありません。よって、今後出資者から出資がなされない場合には、新株引受のための払い込みができないリスクがあります。

(3) 割当予定先の保有方針

割当予定先であるCASTLE第1号投資事業組合からは、取得した株式の保有方針は、中期的に保有したい旨の意見を頂いております。なお、割当予定先が割当新株式の払込期日から2年間に於いて、当該割当新株式の全部または一部を譲渡した場合には、直ちに譲渡を受けた者の氏名または名称及び住所、譲渡株式数等の内容を当社に書面で報告すること及び当社が当該報告内容をジャスダック証券取引所に報告すること並びに当該報告内容が公衆の縦覧に供されることにつき、当社は割当予定先と確約書の締結をいたしました。

7. 募集後の大株主及び持株比率

募集前 (平成21年9月30日現在)		募 集 後	
プラコー共栄会	6.40%	CASTLE第1号投資事業組合	36.35%
株式会社ケプラム	6.35%	プラコー共栄会	4.07%
高寺茂覚	1.93%	株式会社ケプラム	4.04%
秦 範男	1.75%	高寺茂覚	1.23%
松島 晃	1.67%	秦 範男	1.11%
桜井隆太	1.47%	松島 晃	1.06%
松井秀晃	1.26%	桜井隆太	0.93%
宮嶋純子	1.22%	松井秀晃	0.80%
森屋真二	1.07%	宮嶋純子	0.77%
櫻井 武	1.04%	森屋真二	0.68%

(注) 募集後の内容につきましては、平成21年9月30日現在の所有株式数に基づき算出した持株比率を記載しております。

8. 業績への影響の見通し

本件増資により調達した資金により新商品の開発を進める予定にしておりますが、新商品投入が今期の売上高及び損益に与える影響は未定であり、業績向上に本格的に寄与するのは翌期以降になるものと予想しております。

また、現時点において当社は債務超過であることから、顧客によっては債務超過企業への発注について制約条件を設ける等の販売条件が当社にとって不利益な影響があります。しかし、今回の資金調達によって自己資本の充実を図ることや、売上増加の利益により債務超過を解消できれば、当社の売上高及び利益の増加に好影響を与えることが期待されます。

同様に、仕入先との仕入条件にあたり、仕入先から債務超過企業からの受注は前受金あるいは現金決済が要求されるなど、当社にとって不利益な条件となることもあり、増資等により債務超過の解消から仕入条件の好転も期待されますが、その具体的な影響につきましては現段階では不明でありますので判明次第公表いたします。

9. 最近3年間の業績及びエクイティ・ファイナンスの状況

(1) 最近3年間の業績（非連結）

（単位：百万円）

事業年度の末日	平成19年3月期	平成20年3月期	平成21年3月期
売上高	3,403	3,522	2,981
営業利益又は 営業損失（△）	187	△2	△128
経常利益又は 経常損失（△）	123	△64	△181
当期純利益又は 当期純損失（△）	58	△97	△604
1株当たり当期純利益又は 当期純損失（△）（円）	7.44	△12.35	△76.95
1株当たり配当金（円）	—	—	—
1株当たり純資産（円）	74.83	57.40	△21.03

（注）当社は、連結財務諸表を作成しておりません。

(2) 現時点における発行済株式数及び潜在株式数の状況

種類	株式数	発行済株式数に対する比率
発行済株式数	15,758,893株	100%
現時点の転換価額（行使価額）における潜在株式数	—	—
下限値の転換価額（行使価額）における潜在株式数	—	—
上限値の転換価額（行使価額）における潜在株式数	—	—

(3) 最近の株価の状況

①最近3年間の状況

	平成19年3月期	平成20年3月期	平成21年3月期
始値	181円	191円	181円
高値	229円	227円	250円
安値	139円	180円	37円
終値	197円	196円	82円

②最近6か月の状況

	平成21年 5月	平成21年 6月	平成21年 7月	平成21年 8月	平成21年 9月	平成21年 10月
始値	70円	69円	30円	23円	18円	15円
高値	70円	69円	33円	23円	20円	18円
安値	55円	26円	20円	18円	14円	12円
終値	70円	31円	24円	18円	14円	14円

③発行決議日前日における株価

	平成21年10月30日
始値	13円
高値	14円
安値	13円
終値	14円

(4) 最近3年間のエクイティ・ファイナンスの状況

・株主割当による新株式発行

発行期日	平成21年8月3日
調達資金の額	94,441,116円（発行価額：1株につき12円）
募集時点における発行済株式数	7,888,800株
当該増資による発行株式数	7,870,093株
当初の資金用途	新商品の開発費及び借入金返済
支払予定時期	平成21年8月以降順次支払予定
現時点における充当状況	新商品の開発費及び借入金返済に充当 ※

※

単位：千円

項目	8月	9月	10月	計
小型一軸万能破碎機 開発費	2,000	5,000	—	7,000
借入金返済	23,000	32,000	32,000	87,000
計	25,000	37,000	32,000	94,000

II 主要株主である筆頭株主の異動について

1. 異動年月日（予定）

平成 21 年 11 月 26 日を予定しております。

2. 異動の経緯

前述「I 第三者割当による新株式発行」に記載の第三者割当による新株式の発行に伴い、異動が見込まれるものであります。

3. 異動する株主の概要

新たに主要株主である筆頭株主となる株主の概要は、以下のとおりであります。

名 称	CASTLE 第 1 号投資事業組合	
所 在 地	東京都港区虎ノ門 5-12-12	
代表者の役職・名称	業務執行組合員 株式会社モンテブランコ・キャピタル 代表取締役 山田剛夫	
主 な 事 業 内 容	日本国内の上場企業への投資	
出 資 の 総 額	131,000,000 円	
当 社 と の 関 係	資 本 関 係	該当事項はありません。
	取 引 関 係	該当事項はありません。
	人 的 関 係	該当事項はありません。
	関連当事者への該当状況	該当事項はありません。

4. 異動する株主の所有議決権数（所有株式数）及びその議決権の総数に対する割合

	議決権の数 (所有株式数)	総株主の議決権の 数に対する割合	大株主順位
異動前	一個 (一株)	—%	—
異動後	9,000 個 (9,000,000 株)	36.35%	第 1 位

5. 今後の見通し

当該異動による当社業績への影響はありません。

以 上